

研究科12月10日(水)

「自然観察の技術と実践」(その3)

講師 北澤 光子氏(技術士 環境部門)

日時 平成26年12月10日(水) 10:00~15:00

場所 昭和の森(千葉市緑区土気)

テーマは、自分たちで練り上げた自然観察プログラム

第3回目の「自然観察の技術と実践」講座(北澤光子講師)となる。今回は、千葉市の昭和の森に出向き、この地の自然を例に自然観察の知識や技術を学び、自然観察会のプログラムづくりに向けてのヒントを北澤講師から提示してもらう。今日は、同じく昭和の森のフィールドで4チームに分かれ、自分たちで検討し脚本を練ったそれぞれのプランを発表した。事前に下見したチーム、9月以来の3ヶ月間の時間を割いて自宅で観察を続けてきたチームなど、各チームはそれぞれ打ち合わせ協議を重ね作成したプログラムをプレゼンテーションされた。発想、まとめ方いずれも素晴らしい出来栄だと筆者は感心した。



第1発表チーム



第2発表チーム



第3発表チーム



第4発表チーム



コメントされる北澤講師



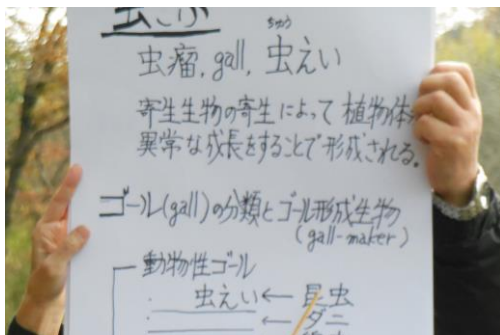
チーム発表が終わり全員で記念写真



大前るみ氏が第1チームの解説員



絵本を使って説明する大前氏



「虫瘤探し」がテーマ



季節は移り観察した葛が見当たらない



写真、絵本、飴？などを使い説明する



イノコヅチの虫瘤が見つかった！



虫メガネも準備して虫瘤を観察する



瘤を割いて見せる



大前るみ氏、北原道郎氏、大沢康男氏



出浦和子氏が第2チームの解説員



虫瘤のできたイノコヅチを手に



第2チームのテーマも「虫瘤」



9月の資料を見せながら解説



ポイントに案内し解説する出浦和子氏



標本も持参し解説



出浦和子氏、稲川利雄氏



辻本平八郎、林田光博、鈴木菊枝、鶴下斗紀雄各氏

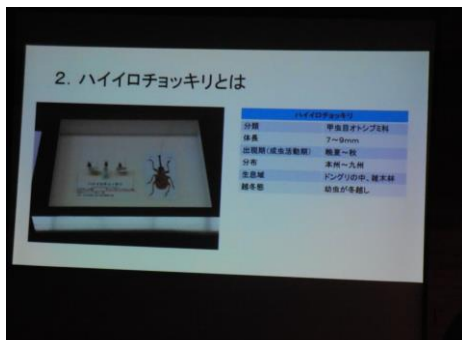
ハイロチョッキリを観察する

—コナラのドングリの中のハイロチョッキリの観察—

メンバー: 鈴木菊枝、林田光博、鶴下斗紀雄、辻本平八郎

発表日: 2014年12月10日発表

テーマは、ハイロチョッキリ観察



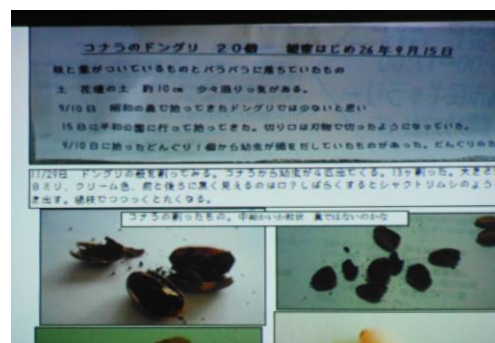
辻本平八郎氏が第3チームの解説員
スライドを使って解説された



ハイロチョッキリ(スライドから)



自宅で観察した成果を報告された



鈴木菊枝氏の観察記録



鈴木菊枝氏の観察記録



ハイイロチョッキリの幼虫



大前氏持参の絵本「虫こぶはひみつのかくれが？」



タマバエがつくる虫瘤(絵本より)



第4チームの山中計一氏、古川進氏、横山勝利氏

桜の葉芽と花芽を観察する実習が行われ、桜の木が毎年寒さに耐え翌年葉をつけ花を咲かせるメカニズムについて、山中氏が解説し、それを北澤講師が補足された。

植物は夜の長さで季節を知るといふ。光の量は積算されるものでなく、温度は積算しているという興味深い話を聞いた。